

修学旅行新聞

発行所 財団法人 全国修学旅行研究協会
発行人 前田 寛
編集人 西田 伸
印刷所 代田区西神田
〒100 8-7 (電話) 2932
東京 都 目 8-7 (電話) 2426
電話 262 2426 6-36337

近畿地区・関東地区 公立中修学旅行委員会 63年度 総会開く

関東および近畿両地区の公立中学校修学旅行委員会では、それぞれ総会を開催し、昭和六十三年度の会長および役員、活動方針などを決めた。開催日順に概要をお知らせする。

会長に土居克巳氏 近畿地区公立中学校修学旅行委員会

(関西支局) 五月三十日、昭和六十三年近畿地区公立中学校修学旅行委員会総会が京都で開催された。助全国修学旅行研究協会理事長山本種一氏はあいさつの中で「中国への海外修学旅行列車事故発生後、安全性の確保が改めて問われた。国内、海外修学旅行のいずれを問わず、諸条件の中でその効果を挙げるには実践活動が中心にならなければならない」と述べた。六十二年度の活動報告ならびに決算報告のち、六十三年年度の役員改選が行われた。

会長に成石昌蔵氏 関東地区公立中学校修学旅行委員会

関東地区公立中学校修学旅行委員会(石川敬夫会長・前水戸市立第二中学校校長)は、昭和六十三年(第二十六年次)総会を、六月三日川越市立図書館で開催した。昭和六十二年活動報告・決算報告・監査報告を承認のち、新

修学旅行実施基準から 公立高校の 海外修学旅行急増

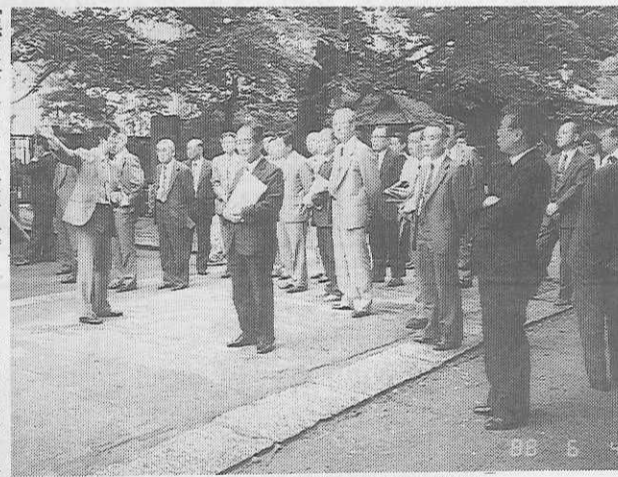
全国都道府県ならびに十大大政令指定都市の教育委員会制定の「修学旅行実施基準」の本年度概要調査は、四月以来各教育委員会及び全国各支部長の協力を得て回収を終り、現在集計分析中である。これは、前記教育委員会が管下の公立小、中、高校並びに私立学校が修学旅行を行う際に遵守すべき旅行日数、費用等について具体的な実施基準を示したものである。詳しい内容については、近日中に冊子にまとめ関係方面

公立高校の海外修学旅行、航空機利用 認知状況(昭和63年)



その必要性、教育的意義を深く確認した上、事前の準備に十分な時間をかけて予備知識を豊富に吸収し、綿密な安全対策と、周到な事前指導を経

功績がたえられた。続いて、NHK制作、文部省高橋哲夫教科調査官指導、(株)教材研究所発売のビデオ教材「修学旅行事前研究」近畿編「京都(1)」を鑑賞した。



川越の視察は文化財の宝庫喜多院から

愛知県支部長 に小林勝彦氏

助全国修学旅行研究協会の愛知県支部長に、六月一日付で小林勝彦氏が就任した。小林氏は愛知教育大学卒、名古屋市中立中学校教師を経て本年四月から愛知県教員組合執行委員長。

第一回研究協議会
は5月12日に開催
関東地区公立中学校修学旅行委員会では、総会に先立ち第一回研究協議会を、去る五月十二日東京文化会館で開催し、今年度事業計画・予算案・役員候補者の選出等、総会提出議案を慎重に審議した。

安禅不須山水
滅却心頭火自涼
旧制中学の漢
文で教わったの
か、戦中何度か
この言葉を口ずさんだ記憶がある。今をときめく大河ドラマ「武田信玄」の菩提寺、塩山の恵林寺の正門の左右の柱に彫りつけてある。信玄の師快川が信長の焼打ちに自若として死んだ話は有名だ。一昨年の「かじり国体」を通じ、山梨の躍進ぶり、それに続く信玄をめぐる先人たちの姿を浮き彫りに、全国津々浦々に喧伝される好機に恵まれ「疾如風疾如林快如火不動如山」の旗が甲斐路にはためいている。信玄は屈指の名将と言われ、もうせめて十年生あらば天下を統一したろうとも言われる。戦に明け暮れたイメージが強烈だが、人生観とか戦国時代の領国統治観といったところが、現代にアピールするのかが、碧巖録百則中七十則を暗記した鋭い頭脳の持ち主らしく、文芸面、和漢詩歌にも優れたものを残す。信玄の遺訓として知られるものに「おまを軍勝五分をもつて上となし、七分を中となし、十分を下となし」云々とある。五分は励みを生じ、七分は怠り、十分は驕りを生ずる。戦に限らず世の中のこと、この心が肝要なりと言っている。青函トンネル、瀬戸大橋で北も南も湧いている。修学旅行も指向する方面に様変わりを生ずるであろう。高等学校は海外という時代「住まば日本の本遊は十和田歩けや奥入瀬三里半」と大町桂月の名文句も気になる。可愛い子には足袋をはかせることのないよう、心頭滅却して考える要がありそうだ。

上海事故の続報
上海列車事故による高知学芸高校の犠牲者をうけ合同慰霊式が、五月二十九日高知県民体育館で行われた。その後、六月四日には東京で入院加療中の男生徒一名が死亡、犠牲者は合計二十八名となった。

先生たちとの修学旅行「いつまでもわすれません！」

生徒の心にあざやかにつづられる、ツーリストの修学旅行。
先生と、そして友と行った修学旅行。
かけがえのないふれあいが、よき思い出として
ひとりひとりの心に残る、そんな旅にしたいですね。
ワールドワイドなネットワークを通じて、ツーリストがお世話する
修学旅行は、各方面より多大なご好評を得ています。
それぞれの教育方針に添った国内・海外の修学旅行なら、
なんなりと近畿日本ツーリストにご相談ください。

近畿日本ツーリスト
本社 千101 東京都千代田区神田松永町19-2 ☎(03)255-7111代 支店/国内242か所(登録)/海外2か所
◎ 運輸大臣登録一般旅行業第20号

生徒指導と特別活動・修学旅行

52

Q 文部省は、先般の海外修学旅行中の事故を教訓に、修学旅行の安全確保を期して、新たな通達を出しました。これによって学校が事故の発生をおそれるあまり、管理強化や計画の縮小等にはしり、この行事が全般的に委縮するところが懸念されます。通達の趣旨を正しく生かしながら、望ましい修学旅行を実施するための、特に配慮すべき事項についてお示しください。

修学旅行 Q & A

修学旅行の安全確保はどのよう配慮するか

行は……意義ある教育活動であることが認められたうえで、事故発生の防止が強く求められていることである。通達では、「平素と異なる生活環境の中にあつて見聞を広げ、集団生活のきまりを守り、公衆道徳について望ましい体験を得ること」が修学旅行の目的として示されているが、現在改訂作業が進められている学習指導要領の改善のねらいや方向をみて、今後における修学旅行の果たす役割や教育的意義について教育委員会等の指導を必要とするのではなからうか。また、公立学校においては、実地調査等を含め、現在以上に旅行の目的地や交通手段等について十分な検討を経てからの選択を行ったうえで教育委員会の助言・指導を求め、承認を得ることがまず必要であり、更に実施に至るまでの期間、定期的に実施計画の内容、特に、旅行の日程や交通手段などについて当初の計画どおりでよいか、変更や改善の必要がないかを、教育委員会の指導を受けながら検討することが不可欠であろう。

さて、ご質問の件であるが、今回の通達の受けとり方によつては、そのようなおそれも生じるのではないかと考えられ、それだけに通達の趣旨やねらいを十分理解し、その徹底に努めていたがたいと願う次第である。たとえば、かつて、ある県

う方針を打ちだしたことがあつた。このような極端な例がまた全国のどこかでくり返されなければならぬ。今回の通達を中心に今後の修学旅行の実施の在り方をい

様々なスタイルの修学旅行

修学旅行シーズンたけなわ、いずこも小・中学生で賑わつていますが、物見遊山の全体行動からクラス別、グループ別に移行しつつあり、思いがけない場所の見学や新しい体験もある。五月実施の四校の例を紹介しよう。

東北で5コースにクラス別行動

千葉県 栄中

千葉県印旛郡栄町立栄中学校(塩田邦雄校長、23名)で、五月二十三日から二泊三

第一日は東北新幹線の上野から仙台へ、バスで塩釜、船で松島に上陸、瑞巖寺からバスで厳美溪、中尊寺を経て平泉に宿泊した。

第二日は平泉からクラス毎にバスで5コースに分かれ、志戸平温泉で合流した。

第一組は平泉からクラス毎にバスで5コースに分かれ、志戸平温泉で合流した。



旅の仕上げは盛岡名物わんこそば

文部省教科調査官 高橋哲夫

この通達は、高知学芸高校の痛ましい事故を再びくり返さないため、またその教訓を今後に生かすため、特に安全確保の視点をしぼつて今後

修学旅行事前研究

NHKビデオ教材 各巻カラー15分

制作・発行/NHKサービスセンター 協力/NHK 監修・指導/高橋哲夫 文部省教科調査官

見学地の自然と歴史、生活と文化、産業経済の諸相を、NHKの全国放送局の資料協力を得て広域特集する修学旅行の「現代風土記」です。

第一集 全4巻/予約セット価¥80,000 近畿編 第二集 関東編

お問い合わせは 発売 修学旅行資料出版 (株)教材研究所 075-681-1591(代)

美しくに 伊勢志摩 伊勢内宮前 岩戸屋

内宮前でのお食事は階上・階下共1,500名様までお楽にお食事が出来ます。お食事ご休憩にご利用下さい。



伊勢市内宮前 岩戸屋

伊勢内宮前 (〒516) TEL <0596> 23-3188(代) テレックス 4969-503 イセイワトヤ

とびだせ自然へ 緑の箱根へ



〒250-05 神奈川県箱根町元箱根164 電話0460-4-8595(代表) 箱根高原ホテル

さわやかな奥日光の高原で素晴らしい 修学旅行の一夜をお過ごし下さい。



そのほか 冬期はスキー教室 夏期は林間学校 奥日光高原ホテル 〒321-16 日光市湯元2549-6 (TEL) 0288-62-2121(代表)

豊かな自然と、科学の調和



見て、触れて、試す体験の旅

体験学習のご案内 ●地曳網 ●潮干狩 ●伊勢形紙彫り ●茶摘み ●テーブルマナー ●本田技研鈴鹿製作所工場見学 ●エンジン教室

お問い合わせ・お申し込みは 鈴鹿サーキット

〒510-02 三重県鈴鹿市福生町7992 ☎(0593)78-1111